

協同組合山梨異業種交流青中倶楽部(秋山勲理事長)は1月15日中央会研修室において、「幻の赤池ワイン」地域活性化にピッタリなワイン」をテーマに研修会を開催した。

今回の研修会は県内企業と多くタイアップし発酵飲料を開発する柳田藤寿氏(山梨大学ワイン科学研究センター教授)を講師に招き、ワインを通じた地域活性化の取り組みの中から新たなアイデアを見つけるヒントを得ることを目的に行われた。

組合は異業種の組合員であることから、共通の利害で組合の活動目標を設定することが難しい。一方、業種や事業が異なった組合員同士が多面的に情報交換することで新たなビジネスチャンスの発想が見つけられるよう様々な研修事業などを情報提供委員会・福利厚生委員会・教育研修委員会の3つの委員会がそれぞれ企画・実施している。

これまでの研修会ではランチエスター戦略をテーマに「小が大に勝つ原則とは」と題し経営戦略・営業戦略づくりの解説や、「組織と人」「人のマネジメント」の観点から、経営者のなすべき事・管理職の心構えなど、これからの企業が求められる姿についての講演が行われ、多様な業種で構成される組合員が、それぞれの企業の経営向上に効果的な内容となっている。



研修会の様子



講師の山梨大学 柳田教授

今回の研修会には約20名の組合員が出席し、参加者の中には果樹や食料品製造に携わる組合員もあり、今後の商品開発や地域活性化に役立つ研修会となった。講演の後には活発な質疑応答が交わされ、組合員における本研修会への関心の高さがうかがえた。組合では、今後も定例的に研修を開催し、組合員企業の経営向上と組合員の更なる拡大・募集を目指していく。